

【淀川水系の現状】

第3章 河川環境の整備と保全に 関する事項

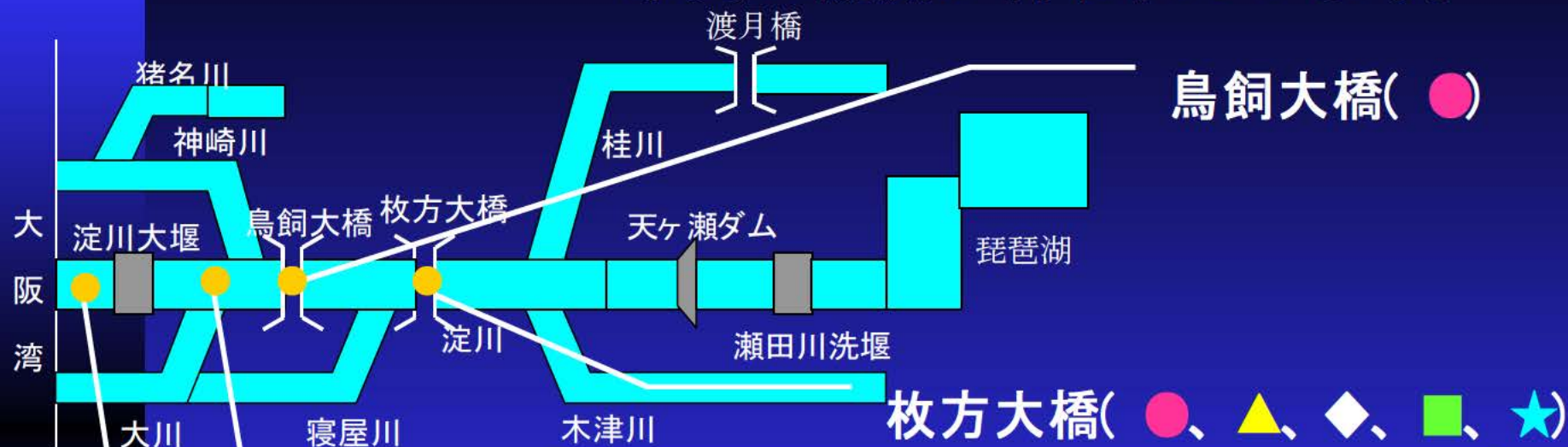
― 抜粋 & 一部追加 ―

1. 淀川本川を中心に
2. 水質、生物、生息環境の現状と変化を中心に

1. 淀川水系の水質

【観測所の位置】

淀川本川では、以下の地点で
水質の観測が行われています。



定期採水……●

(一般項目、生活環境項目、健康項目、総窒素、総リン等)

連続採水……▲

(一般項目、生活環境項目)

水質モニター監視……◆

ダイオキシン観測……■

環境ホルモン観測……★

*この他に枚方大橋、鳥飼大橋で、農薬の調査を、枚方大橋でO-157及び腸管出血性大腸菌の行われています。

1.1 淀川水系の水質の現状

【BOD(生活健康項目)】

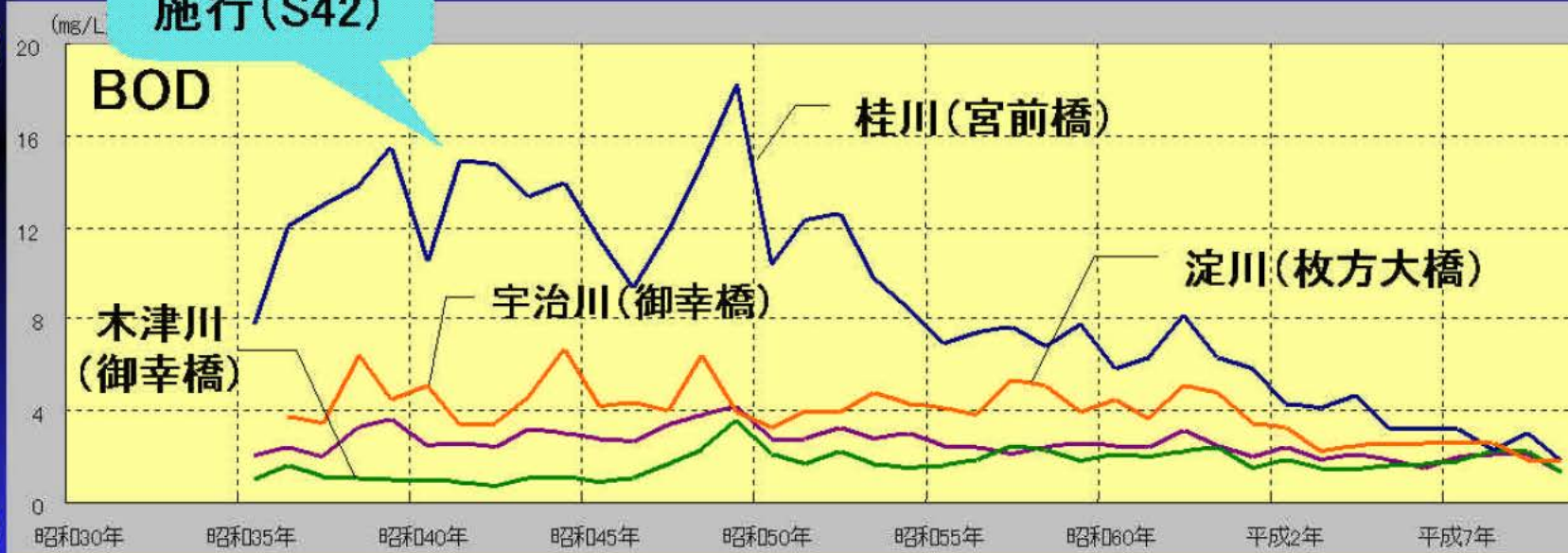
BODとは...

水中の比較的分解されやすい有機物が微生物によって分解される時に消費される酸素の量。
BODが10mg/l以上では悪臭が発生。

水質汚濁法
施行(S42)

(悪化)

(良好)



出典: 淀川水質汚濁防止連絡協議会資料および建設省調査結果

水質汚濁防止法や公共下水道の整備により低下。

1.1 淀川水系の水質の現状

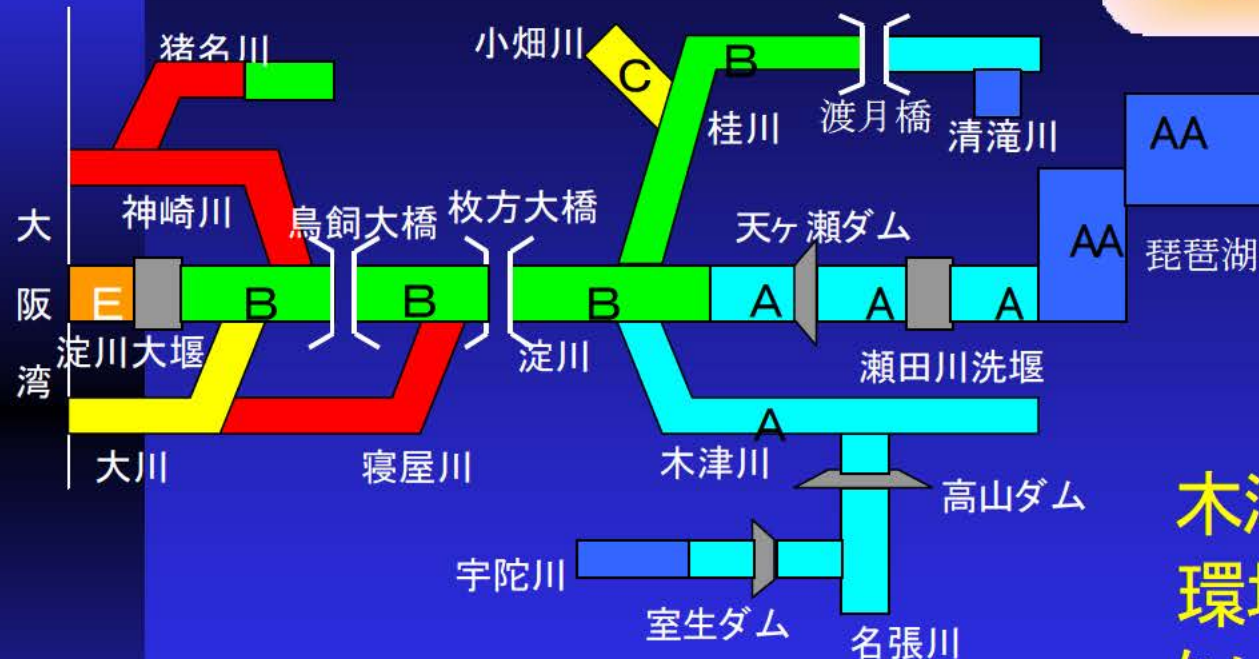
【淀川本川及び3 支川のBODの 基準値達成状況】

環境基準値(BOD)

AA: 1mg/l以下、A: 2mg/l以下

B: 3mg/l以下、C: 5mg/l以下

D: 8mg/l以下、E 10mg/l以下



近年においても、
木津川と桂川では、
環境基準を達成でき
ない年もあります。

	区分	1993	1994	1995	1996	1997
宇治川	A～B	○	○	○	○	○
木津川下流域	A	○	○	○	×	×
桂川	A～B	×	×	×	○	○
淀川	B	○	○	○	○	○

注) 宇治川: 御幸橋

木津川下流域: 御幸橋

桂川: 宮前橋

淀川: 枚方大橋

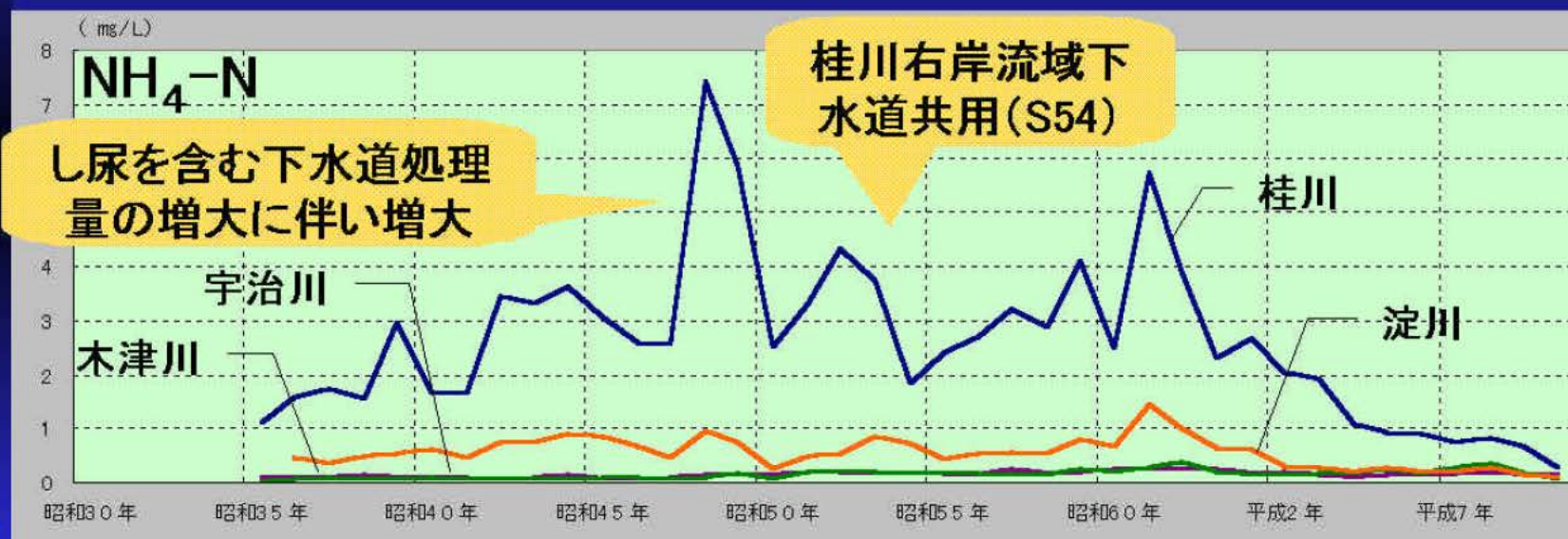
出典: BYQ水環境レポート⁵

1.1 淀川水系の水質の現状 【アンモニア性窒素】

アンモニア性窒素とは…

主としてし尿や家庭下水中の有機物に起因して発生。
富栄養化の原因だけでなく、発ガン性物質のトリハロ
メタン生成の誘因でもあります。

(良好)

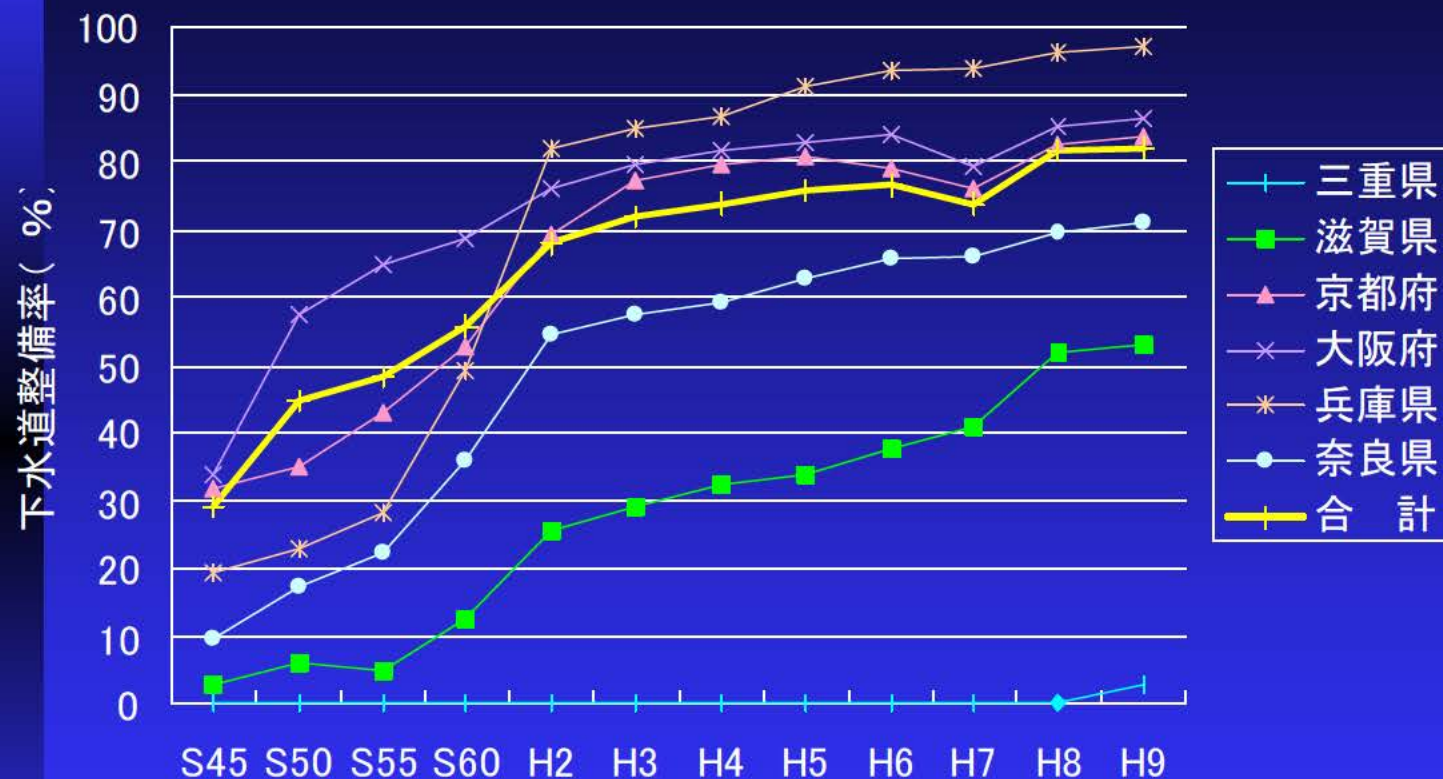


出典: 淀川水質汚濁防止連絡協議会資料および建設省調査結果

下水処理方式の改善などによって桂川での
アンモニア性窒素濃度は低下しています。

1.1 下水道の整備状況

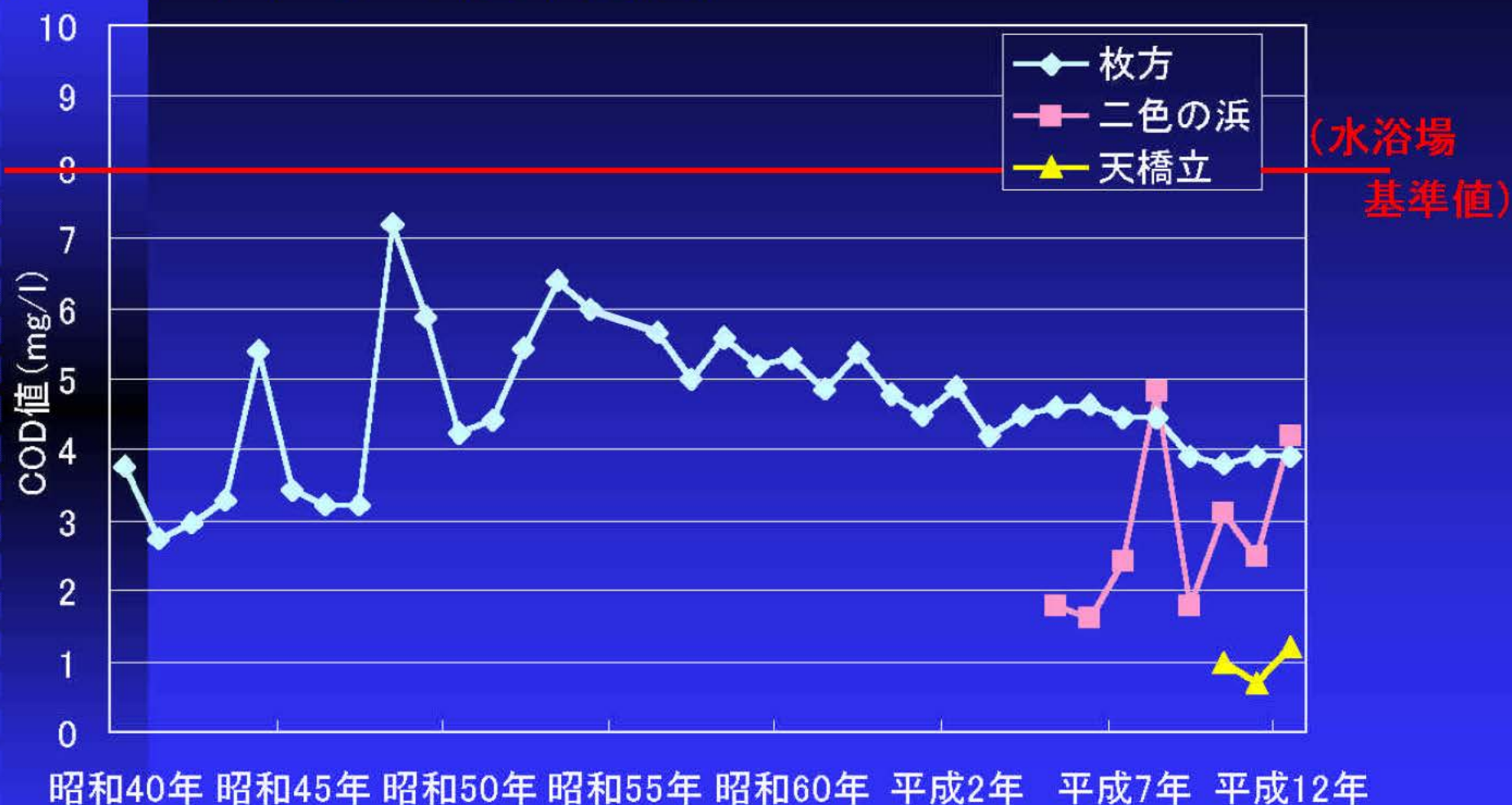
【下水道整備率(%)】



下水道整備率は、府県によって大きく異なりますが、各府県で、整備に取り組んでいます。

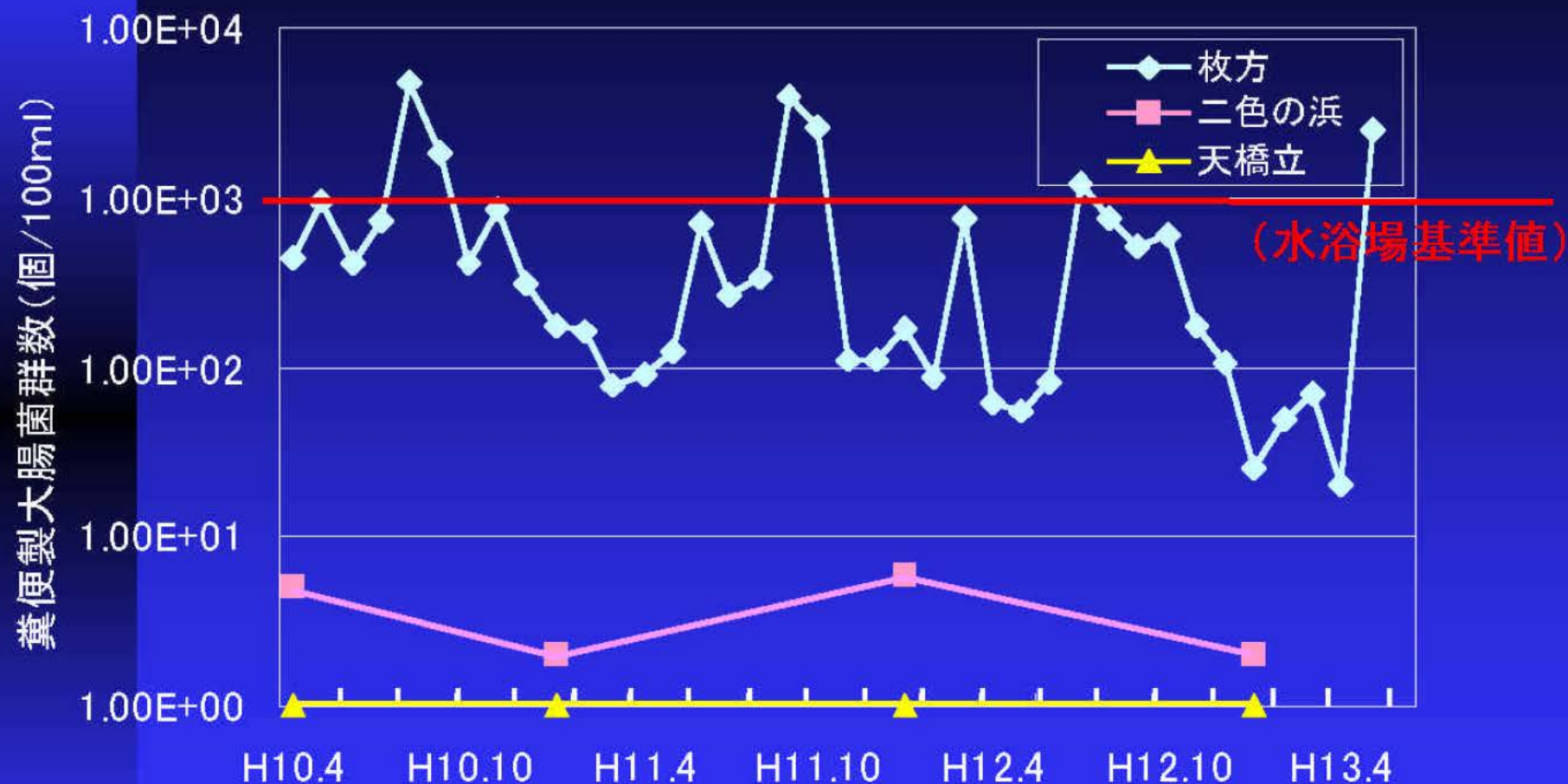
水浴場判定基準から見た淀川の現況

【COD(年平均)の経年変化】



水浴場判定基準から見た淀川の現況

【糞便性大腸菌群数の経年変化】



年毎に糞便性大腸菌群数は大きく変化しており、水浴場基準を満足していない月もあります。

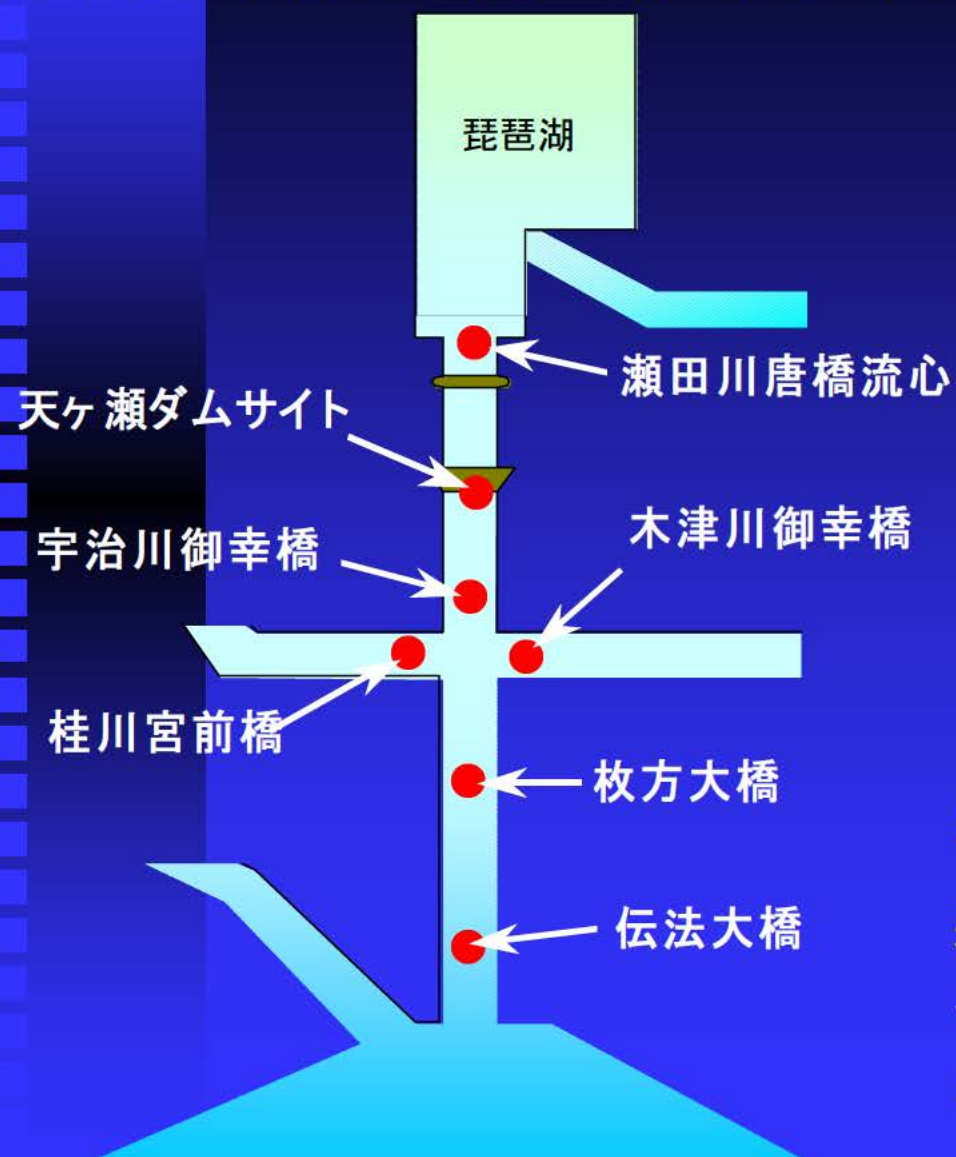
1.8 淀川水系のダイオキシン濃度

【河川水及び河床のダイオキシン濃度】

環境基準値

水質 1pg/L

土壌 1000pg/g



	1回目	2回目	底質
瀬田川唐橋流心	0.097	—	—
天ヶ瀬ダムサイト	0.083	—	—
宇治川御幸橋	0.088	—	34
木津川御幸橋	0.18	—	29
桂川宮前橋	0.2	—	0.2
枚方大橋	0.13	—	4.1
伝法大橋	0.087	0.093	22

平成11年度調査では環境基準を満足しています。
今後も継続して調査を行う予定です。